

包括的自己実現概念のまとめと結論 その1

－ 15年間の自己実現研究からの総括的自己実現概念の共通基盤の構築－

○ ルーテル学院大学大学院包括的コンサルテーションセンター

氏名 清重 哲男 (1709)

キーワード：自己実現・福祉理論・政治哲学

1. 研究目的

本研究は、自己実現に関するこれまでの7つの研究をまとめ、包括的な在宅高齢者に関する自己実現概念を再構築する研究である。2008年のルーテル学院大学大学院博士後期課程学位論文を基点とし、その後、日本社会福祉学会第57～62回大会で、研究を継続し報告してきた。これまでの研究を再分析し、自己実現概念の共通基盤を構築し、自己実現の包括的概念をまとめ、再定義することが本研究の目的である。

2. 研究の視点および方法

基点となる自己実現概念の研究範囲を全分野、地球的視野に拡大し、再研究した。次に7つの研究の概要を説明する。

2.1 学位論文「在宅高齢者の自己実現尺度の開発の研究」で得られた結果

自己実現概念の構成因子は、他者との関係性と個人の生活の2つから構成される。

表1 自己実現尺度の構成因子

| F7 他者との関係性 | F6 個人の生活 |
|-------------------|--------------------|
| F2 能力の社会的活用意欲の程度 | F1 希望を実現する意欲の強さ |
| F3 毎日の生活を楽しんでいる程度 | F4 主観的健康 |
| | F5 自分の人生を大切にしている程度 |

2.2 他の6研究から得られた自己実現に関する主要因（各タイトルは簡略化）

- 2) 在宅高齢者の自己実現：個人の能力の発揮、他者の自己実現の承認、自由が本質。
- 3) 学際的研究の自己実現：個性化、他者を尊重、人生の目標追求、既存価値から独立。
- 4) 宗教的超越性の自己実現：他の人々の幸福に配慮、個人生活と全人類の生活、解脱。
- 5) WHO・ICFの活用と自己実現：個人の尊重、他者との関係、全人類の生活、潜在能力
- 6) ロールズの正義論と自己実現：能力を高め報酬を獲得、才能を最も不利な人に貢献
- 7) カントの自律・ヘーゲルの社会化と自己実現：意志行為、行為主体の自己実現、自由意志の自律、外に出て社会に向かう、他者の自立の承認、相互承認、3つの共同体。

3. 倫理的配慮

本研究は、個人情報に倫理的配慮をしています。本研究で引用・参考とした先行研究文献等は、著作権の保護に従い、研究目的以外に使用しないことを誓約します。

4. 研究結果

自己実現概念について、7つの先行研究から、概念の多様性を整理し、各研究の関連性を円環状に配置したものが、図1の「自己実現概念の共通基盤」である。社会性の視点から次の4つに分類した。 1. 地球的・全人類の 2. 政治 経済的・正義

3. 他者・社会的 4. 理性的・内的（個的）。 全研究の中央に「自己実現概念」の

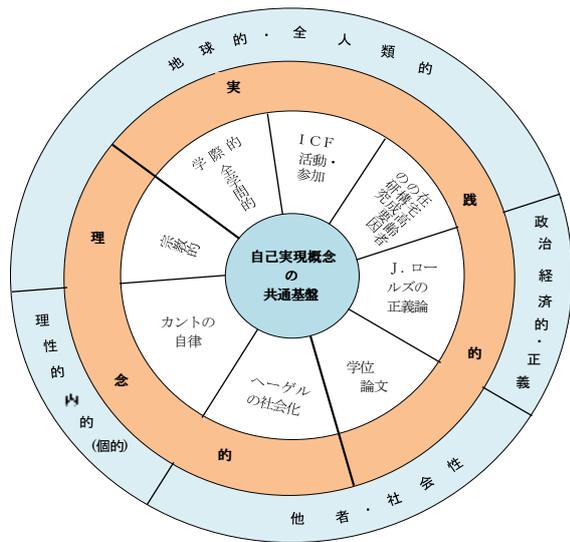


図1 自己実現概念の共通基盤（作成：清重）

「共通基盤」が存在している。
 カントの自律論は、理性的、内的である。
 ロールズの正義論は、不利な人々への政治的
 経済的・正義を述べている。ICF は、地球
 的・全人類的な健康状態を目的とした理論で
 ある。筆者の基点論文の自己実現は、個人と
 他者との社会的関係性を基本している。
 宗教的超越性は、個人を超越した全人類の
 幸福に関する概念である。ヘーゲルの社会化
 は、個を出て、精神が他者との合一を目指
 した概念である。

自己実現概念の共通基盤の要点は、他者への支援にある。自己の成長とは、他者への支援

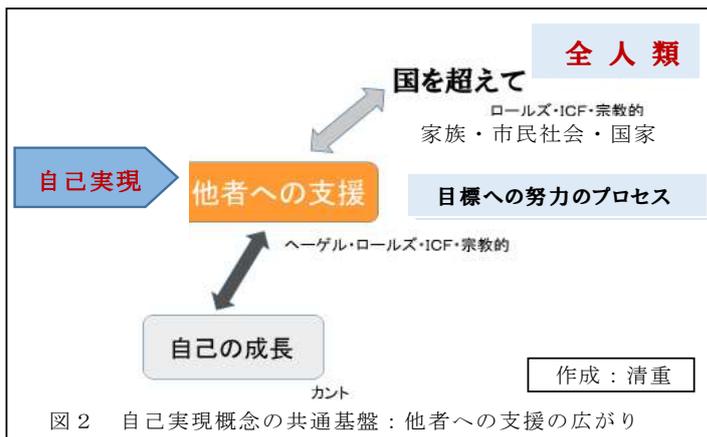


図2 自己実現概念の共通基盤：他者への支援の広がり

を目標としている。他者への支援
 を通じて、個は自己を実現できる
 のである。（図2参照）

自己の成長とは、個自身の能力の
 向上にとどまることなく、個の成
 長が他者である不利な人々への
 支援に、プラスに貢献することが
 本質であり、そこに、本来の成長

の目的が存在している。他者とは、身近な家族から始まり、市民社会、国家的な人々にま
 で及び、最終的には、全人類の人々の善の増大に貢献することである。自己実現とは、個
 の潜在能力を高め、他者への支援を順次高めていく**継続的な努力のプロセス**のことをいう
 のである。

5. 考察

自己実現は個人の成長と他者への支援、継続的成長への努力のプロセス の3因子から
 構成される。達成される目標の量や大きさを問題としない。自己実現は個人の成長を基本
 とする。個の成長とは、個の自由の獲得のプロセスである。自律的に人生の目標を追求し
 続け、自己を脱却し、他者との合一を目指す自己の成長の継続的過程を「**自己実現のプロ
 セス**」という。そこには生きる意志の意欲が作動している。他者との合一を目指す自己成
 長とは、最も不利な状況の人々の善の増大に貢献することである。**他者への支援**とは、
 最も**不利な状況の人々**の善の増大に努め、その人々の最大の**利益の確保**に貢献すること
 であり、そこに個の自己の実現の究極的な意味が存在している。 — 完 —